

2022 年度（2023 年 3 月期）中間決算説明会

2022 年 11 月 17 日（木）13：00-14：00 WEB 開催（SMB C 日興証券 新丸の内ビルディング）

出席者：26 名

主な質疑・応答

回答者：

代表取締役社長執行役員 福井 正一

1) 商品の値上げの概要はどういった内容でしょうか？

また、今後の再値上げの予定はございますでしょうか？

本年 6 月に、昆布製品・豆製品・惣菜製品の 89 品目について値上げいたしました。家庭用商品 63 品目、業務用商品 26 品目について概ね 2%から 10%の値上げ幅であり、全体平均では 5%程度の値上げとなっております。

今後の値上げ予定については、来年 1 月にデザート品群の「フルーツセラピー」を 6%から 10%の値上げを実施いたします。ただ、この値上げだけではまだ不十分で、更なる値上げが必要だと考え、検討を開始しております。必要に応じて順次実施してまいります。

2) 第 2 四半期会計期間（7 月～9 月）では営業利益率が 1%台となっておりますが、これは過去 10 年でも最低水準となったと記憶しております。確かに経営改革は必要だと思いますが、改革のスピードが遅く、先ほどの“ニュー・フジッコ”のご説明の中でも必要とあれば設備投資も行うとの話もありました。ただ、営業利益の低下が大きく、設備投資が増えると企業価値に影響を及ぼすフリーキャッシュフローがマイナスとなり、企業価値の向上が厳しい状況だと考えます。最近の決算発表では、計画未達・下方修正の発表が多い様に感じておりますが、自社の能動的な活動でいつ頃何をして業績回復を図ろうとしているのかを具体的に教えてください。

設備投資については、直近 5 年間で 283 億円という過去にない規模で実施し、この投資の償却負担が営業利益減少の要因にもなっております。ただ、最も大きな課題はトップラインが上がらないという営業政策にあります。“ニュー・フジッコ”の経営改革の中で取り組んだ SKU 削減によって商品数を 43%削減しました。この施策は生産性を高めることを目的に取組みましたが、その成果は小さいものにとどまっていると今は感じております。人件費については、残業代を削減することは出来たものの、ただちに人員数を削減するまでには至らず、品目数は減らしたものの品群そのものは残っており、生産ライン数も以前と変わっていないため、品目移設のための余剰スペースが生み出せていないのが現状です。今後は、自動化・省人化、おいしさ革新のための製法改良等について設備投資を実施していきたいと考えております。ただし、設備投資の実施規模については、大型の投資は行わず年間 30 億円程度の投資にとどめる予定です。

また、直近まで商品数を思い切って削減してきましたが、私がコア事業本部の担当取締役となり、

新商品の開発に注力していく方針を掲げております。昆布と豆の新しい食べ方を提案できるような新商品を上市するよう努力していきたいと考えております。

現状の商品群については、「スター商品」の売上構成比をしっかりと高めていくことでトップラインを伸長させていきたいと考えております。物量を伸ばして限界利益を高め、損益分岐点を低下させることによって利益を出せるような構造に仕立て、直近3か年でV字回復を図りたいと思います。

以上